

# 環境経営レポート

VOL.16



[ 対象期間 2023年 8月 ~ 2024年 7月 ]

作成 2024年 9月3日

## 南日本興業株式会社

承認	作成
2024・9・3	2024・9・3
	

## 目 次

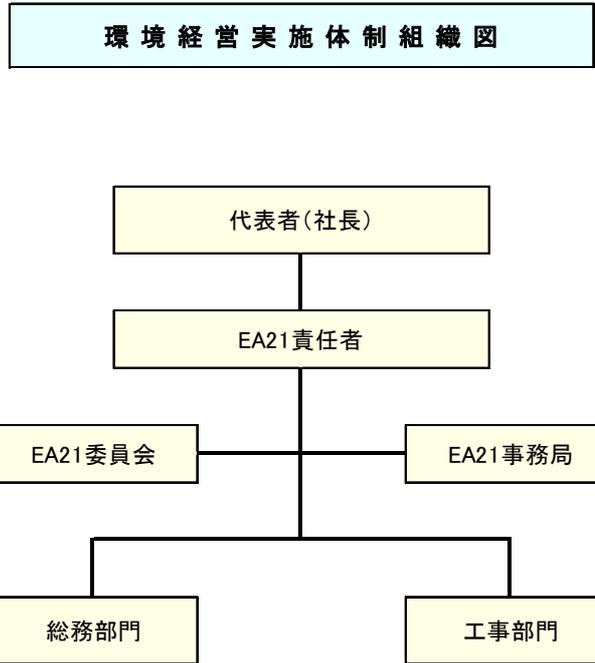
1 組織の概要	1
2 対象範囲等	3
3 環境経営方針	4
4 環境経営目標	5
5 環境経営計画	6
6 環境経営目標の実績	8
7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	9
8 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	18
9 代表者による全体評価と見直しの結果	19
10 環境活動の取組み状況	20

## 1 組織の概要

- 1) 事業者名及び代表者名  
南日本興業株式会社  
代表取締役 岩坂玲子
  
- 2) 所在地  
〒880-0943  
宮崎県宮崎市生目台西3丁目8番地1
  
- 3) 環境管理責任者及び事務局  
EA21 責任者 : 大山 真  
EA21 事務局 : 福原 斉
  
- 4) 連絡先  
連絡担当者: 福原 斉 (EA21 事務局)  
TEL : 0985-53-9252  
FAX : 0985-53-9259  
E-mail : fukuhara@mknet.co.jp
  
- 5) 事業活動の内容  
建設業 (土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、ほ装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業)
  
- 6) 事業規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
工事等の件数	件	34	30	42
売上高	百万円	226	131	181
従業員	人	9	11	10
事務所床面積	m <sup>2</sup>	150	150	150
倉庫床面積	m <sup>2</sup>	153	153	153

7) 環境経営実施体制組織図



各役割、責任、及び権限

代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営方針の策定</li> <li>・ 経営資源の準備</li> <li>・ 環境経営全体の評価と見直し</li> <li>・ 環境経営レポートの承認</li> <li>・ 環境経営目標及び環境経営計画の承認</li> <li>・ 環境経営における課題とチャンスの整理、明確化</li> </ul>
EA21責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EA21システムの確立、実施推進、維持管理</li> <li>・ 環境への負荷及び取組への自己チェックの承認</li> <li>・ システム全体の運用状況の把握</li> <li>・ 環境目標及び環境経営計画の策定</li> <li>・ 環境経営レポートの環境経営マニュアルの作成</li> <li>・ EA21に関する実績把握と報告</li> <li>・ 利害関係者からの苦情要望等の処理と連絡</li> <li>・ 環境経営目標/環境経営計画結果管理の定期的な評価</li> <li>・ 問題点発生時の是正/予防処置指示と内容承認</li> </ul>
EA21委員会 EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EA21責任者の補佐業務</li> <li>・ 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認</li> <li>・ 教育、訓練計画の策定と実施(緊急時対応訓練・テスト含む)</li> <li>・ 環境文書の作成、管理</li> <li>・ その他EA21に関する業務</li> </ul>
各部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営計画の実施</li> <li>・ 問題点の是正処置</li> </ul>
各社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営の実施</li> </ul>

## 2 対象範囲等

1) 対象範囲（認証・登録範囲）

全社・全組織・全活動

2) 認証・登録事業者

南日本興業株式会社

3) 事業活動

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、  
ほ装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業）

4) 対象事業所

本社（事務所、倉庫）

5) レポートの対象期間

2023年8月 ～ 2024年7月

6) レポートの発行日

2024年 9月 3日

## 環境経営方針

### 基本理念

私達は、積極的に環境問題を認識し、優先課題と位置付けて、当社の事業活動のあらゆる分野で、自主的、積極的に環境保全に取り組み、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の構築に努め、持続可能な社会の実現に貢献致します。

### 基本方針

1. 当社は、建設工事、土木工事の事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。
2. 関連する環境の法規制等を遵守するとともに、行政機関・団体・地域の要請に協力します。
3. 建設工事、土木工事業に於いて、環境に与える影響を削減するために、次の事項に対して優先的に取組みます。
  - ① 化石燃料、電気使用量の節減による、二酸化炭素排出量の削減
  - ② 事業活動工程から排出される廃棄物の削減
  - ③ 節水活動による水使用量の削減
  - ④ 化学物質使用量の削減
4. 工事業務において、環境に配慮した施工計画の提案に努めます。
5. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます。

この環境経営方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2022年 8月 1日 改定

南日本興業株式会社

代表取締役社長 岩坂玲子

## 4 環境経営目標

当社の環境目標は環境負荷の調査結果より、以下の通りに目標を設定した。

### 環境目標

取組項目	20年度実績 (基準値)	21年度目標 (20年度比)	22年度目標 (20年度比)	23年度目標 (20年度比)
1. 二酸化炭素排出量の削減	37,766kg-CO <sub>2</sub>	37,577 (0.5%削減)	37,577 (0.5%削減)	37,577 (0.5%削減)
① 電力使用量の削減	12,327kWh/年	12,265 (0.5%削減)	12,265 (0.5%削減)	12,265 (0.5%削減)
② 燃料使用量の削減	ガソリン使用量の削減 9,949L	9,899 (0.5%削減)	9,899 (0.5%削減)	9,899 (0.5%削減)
	軽油使用量の削減 3,693L	3,674 (0.5%削減)	3,674 (0.5%削減)	3,674 (0.5%削減)
	LPG使用量の削減 138L	137 (0.5%削減)	137 (0.5%削減)	137 (0.5%削減)
2. 一般廃棄物の削減と 建設副産物廃棄方法 の遵守	一般廃棄物の削減 338kg	336 (0.5%削減)	336 (0.5%削減)	336 (0.5%削減)
	建設副産物廃棄方法の遵守	設計書どおりの 廃棄	設計書どおりの 廃棄	設計書どおりの 廃棄
3. 水資源使用量の削減	76m <sup>3</sup> /年	75 (0.5%削減)	75 (0.5%削減)	75 (0.5%削減)
4. 化学物質使用量の 削減	① プライマーは仕様書通りの数量を遵守	プライマーは仕様書通りの数量を遵守	プライマーは仕様書通りの数量を遵守	プライマーは仕様書通りの数量を遵守
5. 環境に配慮した施工計画の提案	① 環境に配慮した施工計画の提案	全ての工事に提案	全ての工事に提案	全ての工事に提案
6. 環境保全活動の推進	① 事務所の清掃活動 ② 事務所壁面の緑化 ③ 環境ボランティア活動の参加	4回/年	4回/年	4回/年

- \* 産業廃棄物（建設副産物）は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、「設計書通りの廃棄」、「廃掃法を遵守した廃棄」を行う事を活動目標として取り組む。
- \* 化学物質使用量の削減は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、「プライマーは仕様書通りの数量を遵守」とする事を活動目標として取り組んでいる。

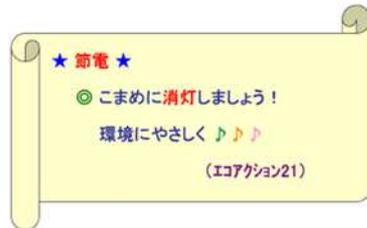
## 5 環境経営計画

事業活動における環境への負荷を低減するために、以下のような活動を実施する。  
その達成状況や活動の実施状況を3ヶ月毎にE A-21責任者が確認する。

### 1) 二酸化炭素排出量削減

#### ① 電力使用量の削減 (-0.5%)

- ・ 昼休み時間の消灯や未使用時の電源OFFの実施
- ・ 不在箇所の電灯の消灯
- ・ 空調温度管理の徹底 (夏28℃・冬20℃に設定)
- ・ PCのオートオフ設定
- ・ 節電シールの表示



#### ② 化石燃料使用量の削減 (ガソリン -0.5%、軽油 -0.5%、LPG -0.5%)

- ・ 車両の燃料使用量と走行距離のチェック
- ・ 始業点検の実施
- ・ エコドライブの徹底 (アイドリングストップや急発進禁止など)
- ・ 現場へ乗り合せ出勤の実施
- ・ LPG 使用時の最適火力の徹底
- ・ 作業効率の最適化
- ・ エコドライブシールの表示

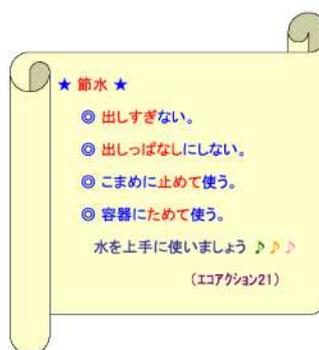


## 2) 廃棄物排出量の削減 (一般廃棄物 -0.5%)

- ① 廃棄物分別の徹底(事務所・現場)と計量と記録の実施
- ② 事務所内での両面コピー・裏紙使用やペーパーレス化の推進
- ③ リサイクル製品の推進
- ④ 建設副産物は即日に指定の処理業者へ処理委託を行う (マニフェストの徹底)

## 3) 水資源使用量の削減 (-0.5%)

- ① 洗車時には蛇口をこまめに開閉して節水する
- ② 節水コマの使用
- ③ 洗車、洗浄作業の効率化
- ④ 節水シールの表示



## 4) 化学物質使用量の削減

- ① プライマーは仕様書通りの数量を遵守

## 5) 環境に配慮した施工計画の提案

- ① 全ての工事において環境に配慮した施工計画の提案

## 6) 環境保全の取組推進

- ① 事務所周辺の清掃活動
- ② 事務所壁面の緑化
- ③ 環境関連ボランティアへの参加

## 6 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りである。

実績値は、2023年度運用期間（8月～7月）の1年で、目標値は基準年（2020年）の削減目標値とする。

取組項目		23年度目標値	23年度実績	達成率	評価
1) 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> 0.5%削減	37,577 kg-CO <sub>2</sub>	34,514 kg-CO <sub>2</sub>	108.2%	○
①電力使用量の削減	電力使用量 0.5%削減	12,265 kWh	14,623 kWh	80.8%	×
②燃料使用量の削減	①ガソリン削減 0.5%削減	9,899 L	9,387 L	105.2%	○
	②軽油削減 0.5%削減	3,674 L	2,704 L	126.4%	○
③LPGの使用量の削減	LPG 使用量 0.5%削減	137 kg	116 kg	115.3%	○
2) 廃棄物の削減と建設副産物の正常処理	①一般廃棄物 0.5%削減	336 kg	310 kg	107.7%	○
	②建設副産物の正常処理	設計書とマニフェストで比較管理する	設計書とマニフェストで比較管理した	100.0%	○
3) 水資源使用量の削減	事務所 0.5%削減	75 m <sup>3</sup>	119 m <sup>3</sup>	41.3%	×
4) 化学物質使用量の削減	プライマーの仕様書通りの数量の遵守	プライマーの仕様書通りの数量の遵守	プライマーの仕様書通りの数量を遵守した	100.0%	○
5) 環境に配慮した施工計画の提案	全ての工事に提案	全ての工事に提案	全ての工事に提案した	100.0%	○
6) 環境保全活動の推進	①事務所周辺の清掃 ②事務所壁面の緑化 ③環境ボランティア活動	4回/年間	事務所周辺の清掃2回 環境ボランティア活動3回 事務所壁面の緑化1回 計6回	150.0%	○

※購入電力の二酸化炭素排出係数(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)は、九州電力の0.370を使用している。

※産業廃棄物（建設副産物）は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、『設計書通りの廃棄』、『廃掃法を遵守した廃棄』を行う事を活動目標として取り組んでいる。

※化学物質使用量の削減は工事の件数や工種によって大きく左右されるため、「プライマーの仕様書通りの数量の遵守」をする事を活動目標として取り組んでいる。

※建設現場の灯油と都市ガスは頻度と使用量が少ない為、目標値から外している。含めた二酸化炭素排出量の実績は34,634.86kg-CO<sub>2</sub>となる。

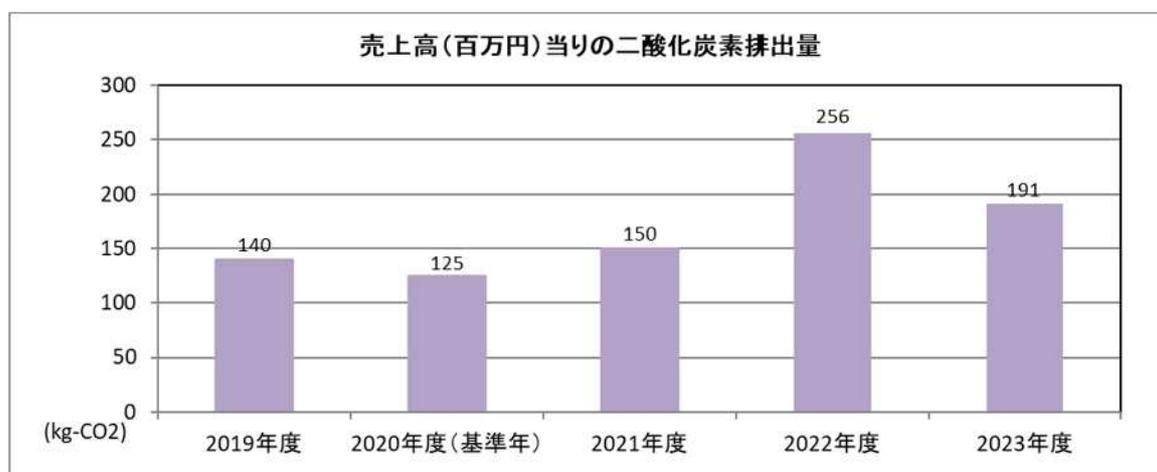
## 7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

温室効果ガス排出量と売上高（百万円）当りの二酸化炭素排出量は以下のグラフの通りである。

前年よりは減少しているが、基準年より増加している。

温室効果ガスは約 8.6%削減した。

（目標は基準年 2020 年の 0.5%の削減）



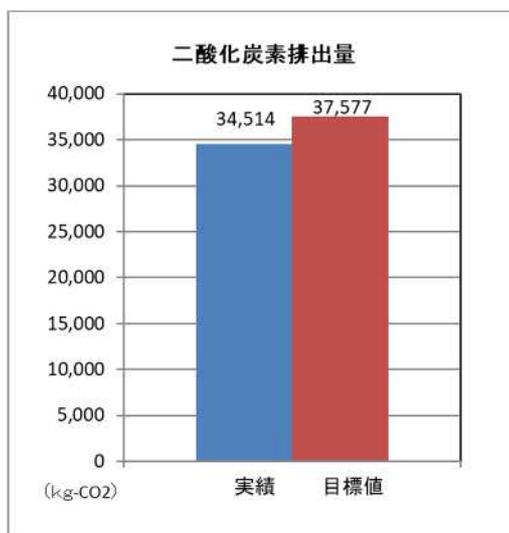
環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画は次の通りである。

## 1) 二酸化炭素排出量削減

### 【取組結果】



当社の二酸化炭素の排出量内訳は左図の通りであり、ガソリン使用量の割合が一番大きく、63%を占めている。次いで軽油20%、電気16%、の順となっている。



### 二酸化炭素排出量

目標値	37,577 kg-CO2 (-0.5%)
実績	34,514 kg-CO2 (-8.6%)
基準値	37,766 kg-CO2

二酸化炭素の排出量の削減は目標値を十分にクリア出来た。

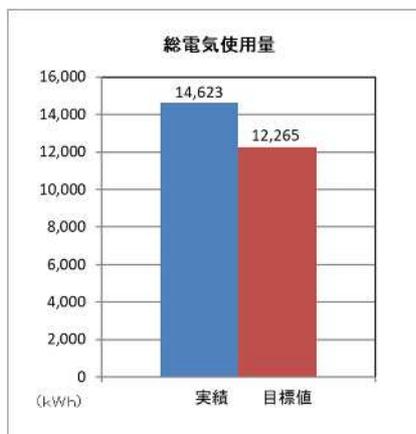
環境効率指標：売上高（百万円）当りの二酸化炭素排出量（kg-CO2）

売上高（百万円）当りの二酸化炭素排出量（kg-CO2）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高（百万円）	240	302	226	131	181
二酸化炭素排出量（kg-CO2）	33,698	37,766	33,807	33,593	34,514
売上高（百万円）当りの二酸化炭素排出量（kg-CO2）	140	125	150	256	191

環境効率指標である売上高（百万円）当りの二酸化炭素排出量（kg-CO2）は、2020年度（基準年）が125（kg-CO2/百万円）であったのに対して2023年度は191（kg-CO2/百万円）であり、52.8%の増加になった。

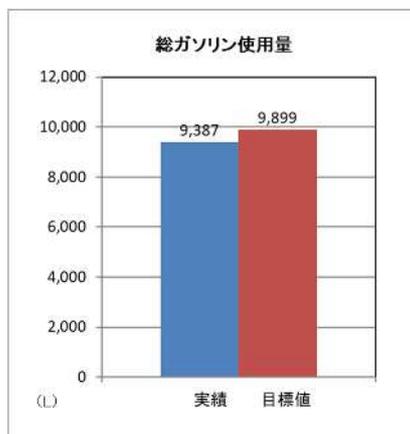
### 電気使用量



目標値 12,265 kWh  
(-0.5%)  
実績 14,623 kWh  
(+18.6%)

基準値 12,327 kWh

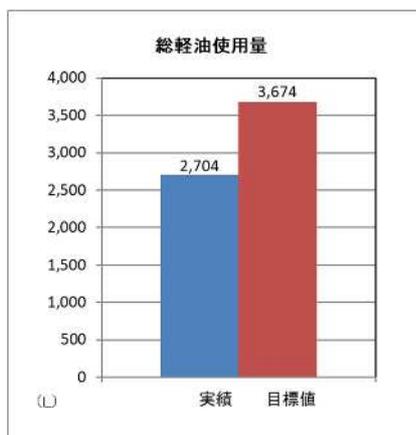
### ガソリン使用量



目標値 9,899 L  
(-0.5%)  
実績 9,387 L  
(-5.6%)

基準値 9,949 L

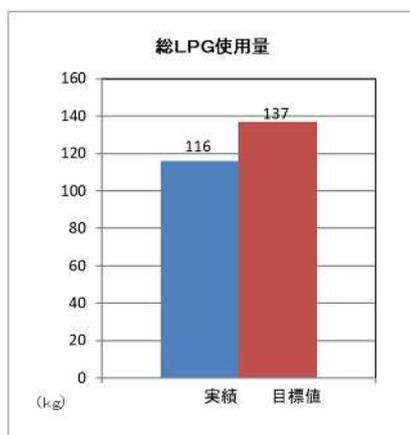
### 軽油使用量



目標値 3,674 L  
(-0.5%)  
実績 2,704 L  
(-26.8%)

基準値 3,693 L

### LPG使用量



目標値 137 kg  
(-0.5%)  
実績 116 kg  
(-15.9%)

基準値 138 kg

二酸化炭素の排出量の目標値を達成出来たが、電気の使用量が大きく増加した。

受注、現場作業の状況により内業が増加し、厳寒の影響も有り電気の使用量が増加したと考えられる。会議の際に注意を促し、休憩時、外出時など不要箇所の照明の消灯、エアコンの温度管理、及びパソコンの電源操作は徹底して行ったが、成果が出なかった。

例年通り、二酸化炭素削減、室内の熱環境緩和、省エネ、社屋の保護のために、事務所の壁面の緑化を実施した。

ガソリン、軽油の使用量に対しては、アイドリングストップなどのエコドライブを徹底し、現場への相乗り、作業機械の日常点検にも努め良好な成果が出た。

LPG 使用時には最適火力を徹底し、効率の良い作業を心掛けた結果、目標を達成出来た。

#### 【評価】

二酸化炭素の排出量は目標を達成し、良好な結果であると評価する。

電気の使用量のみが目標未達成となった。途中、増加が確認された際に全社員に注意を促し改善を図ったが、増加している。厳寒の影響、受注状況、作業内容等様々な要因が考えられるが、今後、更に努力が必要である。

また、環境効率指標（売上高当りの二酸化炭素排出量）も増加しており、環境経営の効率が低下しているので改善したい。

次年度も全社員で二酸化炭素の排出量の削減を実行し、目標達成を目指す。

#### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

電力使用量の削減（-0.5%）、

- ・未使用時の電源OFFの徹底
- ・空調温度管理の徹底
- ・パソコンのオート電源オフ設定

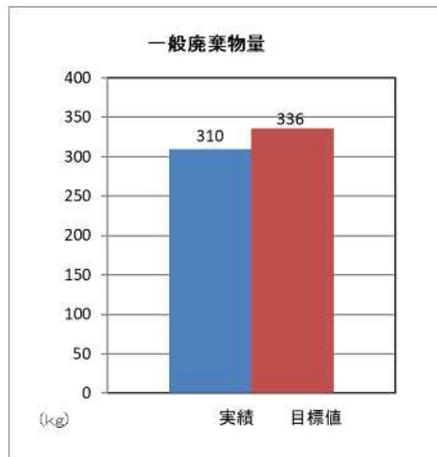
化石燃料使用量の削減（ガソリン -0.5%、軽油 -0.5%、LPG -0.5%）

- ・車両の燃料使用量のチェック
- ・エコドライブの徹底
- ・効率の良い配車スケジュールの検討実施
- ・LPG 使用時の最適火力使用の徹底
- ・効率の良いバーナー使用の実施

## 2) 廃棄物排出量の削減

### 【取組結果】

一般廃棄物排出量



目標値	336 kg
	(-0.5%)
実績	310 kg
	(-8.3%)
基準値	338 kg

一般廃棄物の排出量の削減は目標を達成出来た。

- ・一般廃棄物の分別は徹底しており、計量も確実に記録している。
- ・可能な限り、紙は両面コピー、集約コピー、裏紙使用を実行している。
- ・会議では OHP を導入し、ペーパーレス化を推進している。
- ・プリンターのインクはリサイクルを心掛けている。
- ・建設副産物の処理はマニフェストにより確実に実施している。

建設副産物廃棄方法は設計書とマニフェストを比較し正常処理を管理した。

### 【評価】

一般廃棄物の排出量の削減は目標を達成出来た。全社員の努力が良好な結果を出したと評価できる。

次年度も良好な結果を出すよう、更に努力をする。

### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

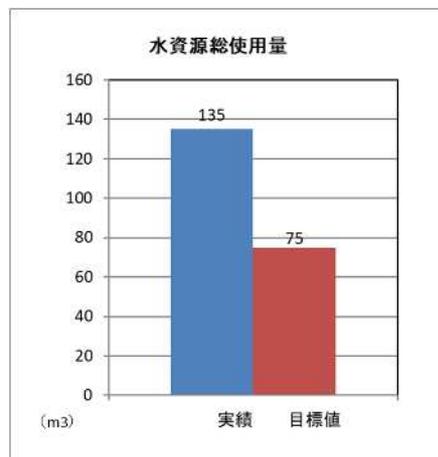
廃棄物排出量の削減 (-0.5%)、

- ・廃棄物の分別と計量管理
- ・リデュース、リユース、リサイクル推進
- ・コピー用紙などの節減
- ・仕様書通りの廃棄(量・場所)遵守
- ・マニフェストの即時起票

### 3) 水資源使用量の削減

#### 【取組結果】

水資源総使用量



目標値	75 m <sup>3</sup> (-0.5%)
実績	119 m <sup>3</sup> (+56.6%)
基準値	76 m <sup>3</sup>

水使用量は目標達成が出来なかった。

水道口には「節水シール」を貼り、こまめな蛇口の開閉を徹底し節水に取り組んでいる。また、洗車時には泥を落とした後に洗車するよう心掛けている。

#### 【評価】

全員が常日頃、節水を意識して活動しているが目標未達成で残念な結果である。現場の状況、毎朝の清掃作業によるものだと思われるが、更なる節水の努力が必要である。

#### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

水資源使用量の削減 (-0.5%)、

- ・水道使用時のこまめな蛇口開閉

#### 4) 化学物質使用量の削減

##### 【取組結果】

化学物質（プライマー）使用量は受注状況、現場状況により差が大きく、一概に削減する事は困難な為、「プライマーの仕様書通りの数量の遵守」という目標を立てて実行している。作業時には全員が「プライマーの仕様書通りの数量の遵守」を心掛けおり、問題は無い。

##### 【評価】

プライマーの使用過多は無く、全員で「プライマーの仕様書通りの数量の遵守」を実践していると認め、良好であると評価する。

##### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

プライマーの仕様書通りの数量の遵守

- ・「プライマーの仕様書通りの数量の遵守」を実践する

#### 5) 環境に配慮した施工計画の提案

##### 【取組結果】

受注した工事において、施工計画作成時に環境に配慮した施工計画を提案している。

##### 【評価】

環境に配慮した施工計画の提案は全社員が取り組んでおり、良好である。

##### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

環境に配慮した施工を実施する

- ・環境に配慮した施工計画の提案に努める

## 6) 環境保全の取組推進

### 【取組結果】

「道路愛護デー」、「土木の日」、「青島美化奉仕作業」の環境関連ボランティアへ参加し、環境保全に取り組んだ。

事業所周辺の清掃活動は年末、年度初めに全社員で実施した。

社屋壁面の緑化は例年通りに行った。

### 【評価】

環境ボランティアへの参加、事業所周辺の清掃活動、事業所壁面の緑化等、全ての計画に対し、全社員が積極的に取り組み、大変良好である。

### 【次年度の環境経営目標及び環境経営計画】

環境保全の取組みを推進する

- ・ 事務所周辺のコサ掃除活動
- ・ 社屋壁面の緑化
- ・ 環境ボランティア活動への参加

## 7) 中期経営目標

### 次年度の中期経営目標

取組み項目 (目標項目)(単位)		環境経営目標			
		基準値 (2021~2023年度平均)	2024年度	2025年度	2026年度 (中期の到達目標)
1	二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	35,294	基準年比0.5%削減 35,117	基準年比0.5%削減 35,117	基準年比0.5%削減 35,117
	① 電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	14,402	基準年比0.5%削減 14,329	基準年比0.5%削減 14,329	基準年比0.5%削減 14,329
	② ガソリン使用量の削減 (営業車・現場作業車燃料) (L)	9,781	基準年比0.5%削減 9,732	基準年比0.5%削減 9,732	基準年比0.5%削減 9,732
	③ 軽油使用量の削減 (重機・トラック等) (L)	2,104	基準年比0.5%削減 2,093	基準年比0.5%削減 2,093	基準年比0.5%削減 2,093
	④ LPG使用量の削減 (区画線設置) (kg)	173	基準年比0.5%削減 172	基準年比0.5%削減 172	基準年比0.5%削減 172
	① 一般廃棄物の削減 (kg)	257	基準年比0.5%削減 255	基準年比0.5%削減 255	基準年比0.5%削減 255
2	② 建設副産物廃棄方法の 遵守	設計書通りの廃棄	設計書通りの廃棄	設計書通りの廃棄	設計書通りの廃棄
3	水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m <sup>3</sup> )	112	基準年比0.5%削減 111	基準年比0.5%削減 111	基準年比0.5%削減 111
4	化学物質使用量の削減 (トルエン)	プライマーは仕様書通 りの数量の遵守	プライマーは仕様書通 りの数量の遵守	プライマーは仕様書通 りの数量の遵守	プライマーは仕様書通 りの数量の遵守
5	環境に配慮した施工計画の提案	全ての工事に 提案	全ての工事に 提案	全ての工事に 提案	全ての工事に 提案
6	環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	4回/年	4回/年	4回/年	4回/年

## 8 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りである。

環境関連法規等の遵守状況確認をしたが、違反は無かった。また、地域住民からのクレームや訴訟及び監督官庁からの指摘もなかった。

尚、現場での遵守状況は、安全パトロール・安全会議などで常に確認している。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 廃棄物の削減</li><li>・ 廃棄物の適正処置の確保</li><li>・ 産業廃棄物保管基準遵守</li><li>・ 産業廃棄物処理委託基準の遵守</li><li>・ 産業廃棄物管理票の管理義務</li><li>・ 3号様式による県知事への報告</li></ul>	遵守確認済
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 規制基準の遵守</li><li>・ 該当する工事の場合は届出と計測実施</li></ul>	該当工事なし
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 規制基準の遵守</li><li>・ 該当する工事の場合は届出と計測実施</li></ul>	該当工事なし
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分別解体実施義務の遵守</li><li>・ 再資源化等の実施義務の遵守</li><li>・ 発注者への報告義務の遵守</li></ul>	遵守確認済
オフロード法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 排出ガス適合機器の使用</li><li>・ 適合シールの貼付と確認</li></ul>	遵守確認済

## 9 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による全体の評価と見直し・指示は以下通りである。

### 1) 評価

環境経営目標においては、二酸化炭素の排出量の削減はクリアし良好である。しかし、電気の使用量が目標未達成であったのは、残念な結果である。これは、受注、現場の状況によると思われる。

環境経営マネジメントシステムは全社員がスムーズに運用している。  
全環境目標を達成出来るよう、更なる努力を期待する。

### 2) 見直し・指示

環境経営目標の未達成は見られるが、環境経営マネジメントシステムは良好に運用されており、必要な時には改善するが、変更はせず、これまで通りに継続する。

環境関連法規等の遵守状況は良好であり、地域住民、その他からのクレームもない。  
不適合が有る場合は是正処置を施し、改善を図る。

環境経営マネジメントシステムの見直しはせず、全社員で目標達成に向けて、継続して活動に取り組む。

## 10 環境活動の取組み状況

当社において環境活動の取組みは以下の様に行っている。

### ゴミの分別の徹底

ゴミの分別を徹底している。



社是

私たちは、限りなく  
目標達成に挑戦し続けます。



南日本興業株式会社